

〈共同研究〉

「イノベーションと企業規模の関連に関する実証的研究：京都企業について」

京都の大学生のモノづくりに関する意識調査*

松 岡 憲 司

京都は工芸品、和菓子など我が国に伝統的な産業がさかんな都市であると同時に、ITなどの先端産業分野をリードする企業が集積していることでも知られている。シリコンバレーをもじって、「京阪バレー」などと表現されることもある。

本報告は、そういった二面性をもつ京都のモノづくりについて、大学生がどのように認識しているかを調査した結果の一部である。

この調査は元々、筆者が担当している龍谷大学経済学部授業「モノづくり活性化プロジェクト」における調査の実習として実施した調査を出発点としている。授業の一環としての調査は、龍谷大学の学内のみを対象として経済学部と理工学部の学生に実施し、文系の学生と理系の学生の間でモノづくりに関する意識に違いがあるかどうかを確かめるということを主な目的としていた。

授業の終了後、せっかく集めたデータをもう少し幅広く活用できないかと考え、京都市内にある他大学でも同じアンケートを実施してもらい、京都の大学生がモノづくりにどのような意識をもっているかを明らかにしようとしたのが、本調査の目的である。

調査対象は、授業の一環として調査した龍谷大学の他、京都大学、同志社大学、京都産業大学の4校である（調査の実施順）。学部は龍谷大学と京都大学が経済学部、同志社大学は商学部、京都産業大学は経営学部である。サンプル数は龍谷大学が326件、京都大学158件、同志社大学163件、京都産業大学49件、計696件である。このような

調査では母集団からの標本抽出に偏りが無いことが重要である。しかし実際に調査を実施するにあたっては、無作為抽出などの偏りを避ける方法をとることが難しい。本調査では、協力いただいた大学のある授業の時間を割いてもらい、アンケートを実施している。そういった点で、偏りの可能性をはらむ調査であるが、全体で696件というサンプル数から、ある程度は京都の大学生による京都のモノづくりの認識度合いが表れているのではないかと考えている。実施時期はいずれも2005年である。龍谷大学では6月から7月にかけて、京都大学と同志社大学は10月初旬、京都産業大学は12月である。

まず、モノづくりに関心があるかどうかについての回答をまとめたのが、表1である。全体として、半数を超える52.7%の学生がモノづくりについて興味をもっている。しかしその反面、興味が「あまりない」、あるいは「まったくない」と答えた学生も41.9%と少なくない。大学間での差はほとんどないが、京都産業大でモノづくりに興味のある学生の比率が60%を超えているという点が、他大学の学生と少し違っている。

表1の設問ではあえてモノづくりがどのような範囲をもっているのか明示しなかった。表2は、学生自身が京都のモノづくりとしてどのような産業を考えているかという結果を示したものである。この設問では複数回答を認め、京都のモノづくりを代表すると考えれば産業をいくつ選んでもよいとしている。ここで選択肢としてあげた産業

は、和装、茶碗・陶器、和菓子、漬け物、日本酒といった伝統産業と、携帯電話、ゲーム機器、精密機器、電子機器といった先端分野の産業である。その他に自由記入で産業名を記入できるようにした。京都のモノづくりと言った場合、先端産業分野も含む、工業的な産業を連想しがちであるが、学生からみた場合、むしろ伝統的な産業分野を京都のモノづくりと考えていることがはっきりと表れている。

表3は、京都のハイテク企業として思いつく企業の名前を4社まであげてもらった結果である。この結果は、学生が消費者として製品に接する機会をもつ携帯電話やゲーム機器、健康機器を製造しているメーカーの認知度が高い一方、測定機器、精密機器、部品といった消費財メーカーでない企業の認知度は低いことがわかる。また大学別に見ると、寄付講座などで企業が大学と密接な関係を持っている場合に、その企業の認知度が高いことが示されている。

このように大学生は必ずしも京都のハイテク系企業をあまり認識していないようであるが、同じような傾向が次の表4でも観察できる。これは「京都はハイテクベンチャーが多い町だ」という意見に賛成するかどうかを尋ねた問いへの回答である。全体としてみると、「非常に賛成」または「賛成」と答えたのは33.1%と約3分の1であった。しかし反対という回答も少なく、半数以上の56.5%が「どちらとも言えない」という回答であった。これは、学生が京都のハイテク系企業にあまり関心をもっておらず、企業名もあまり知らないということで、前の表とも共通する傾向を示しているのではないと思われる。大学別に見ると、京都大学で賛成と答えた学生が42.0%と他大学に比べて多く、逆にどちらとも言えないという回答の割合はもっとも低く49.0%であった。

最近、産学連携が活発になっており、新しい技術を生み出す源泉として注目されている。京都は、早くから産学連携への取り組みに積極的であり、大学が保有する特許を産業界に移転するためのTLOについても、関西TLO株式会社が全国でもっとも早くTLO機関として認定された4機関の中に含まれている。個別の大学でも産学連携への取

り組みは活発に行われているが、そのような活動が学生にどの程度認知されているのかという結果が次の表5である。全体としてみると、自分の大学における産学協同について知っている学生は18.6%と2割程度で、8割以上の学生が知らないと答えている。ここでも京都大学のみ認知度が高く31.6%の学生が知っていると答えている。このような差異を生む要因ははっきりしないが、調査対象の4大学の中で唯一医学部をもっており、医学部では伝統的に産学協同が非常に活発であるということを反映しているのかもしれない。

次の表6では、各大学での産学協同についての学生による評価である。全体として、活発であると評価したのは28.5%であった。ここでも京都大学のみ活発であるという評価が41.6%と他の大学に比べ高い比率となっていることが注目される。

最後に、今後京都が発展するためには、どんな産業を伸ばすべきかという設問への回答を示したのが表7である。ハイテク産業と伝統産業を比べると、全体としては伝統産業が若干多くなっている。この設問については大学間で二極化している。龍谷大学と京都産業大学では伝統産業という回答が多いのに対して、京都大学、同志社大学ではハイテク産業と伝統産業がほぼ同じ、あるいは若干ハイテク産業が多いという結果になっている。このような二極化している要因については、今後もう少し詳しい分析が必要になるだろう。

この報告は、集められたデータの一部を記述的にまとめたものにすぎず、さらに詳しい分析をする予定である。しかし、全体的として、京都の経済・経営系の学生が、京都のモノづくりについて十分な理解をしていないという傾向にあることを示している。京都の産業振興のためには、学生のような若者の理解が不可欠である。大学も含めた関係機関において、京都の産業に関するより一層の啓蒙活動が必要であることを示しているのではないだろうか。

*本調査に当たっては、京都大学の若林直樹先生、京都産業大学の具承桓先生のご協力をいただいたことに感謝いたします。またデータの集計について、龍谷大学大学院の侯玲玲さんの協力を得た。なお、内容の過ちはすべて筆者の責任である。

京都の大学生のモノづくりに関する意識調査

表1 あなたはモノづくりに興味がありますか？

大学コード	かなりある	少しある	わからない	あまりない	まったくない	その他	サンプル数
龍谷大学	15.5%	34.1%	7.4%	32.2%	10.5%	0.3%	323
京都大学	14.2%	37.4%	3.9%	38.1%	6.5%	0.0%	155
同志社大学	11.9%	45.0%	2.5%	31.9%	8.8%	0.0%	160
京都産業大学	20.4%	42.9%	4.1%	28.6%	4.1%	0.0%	49
総計	14.7%	38.0%	5.2%	33.2%	8.7%	0.1%	687

表2 京都のモノづくりとして思い浮かべる産業（複数回答）

	和装	茶碗・陶器	和菓子	漬け物	日本酒	携帯電話	ゲーム機器	精密機器	電子機器
龍谷大学	52.7%	46.3%	60.0%	40.0%	27.3%	4.8%	8.3%	8.6%	4.8%
京都大学	46.4%	54.2%	61.4%	37.3%	17.6%	10.5%	22.9%	20.3%	14.4%
同志社大学	51.3%	34.4%	61.9%	41.3%	18.8%	8.1%	19.4%	21.3%	14.4%
京都産業大学	57.1%	36.7%	65.3%	53.1%	20.4%	4.1%	10.2%	30.6%	18.4%
総計	51.3%	44.6%	61.2%	40.6%	22.6%	6.8%	14.3%	15.8%	10.2%

表3 京都のハイテク企業として思いつく企業（1人4社まで回答）

企業（アイウエ順）	オムロン	京セラ	島津製作所	日本電産	任天堂	堀場製作所	村田製作所	ローム
龍谷大学	5.0%	40.6%	3.5%	1.9%	20.8%	2.8%	4.4%	2.5%
京都大学	7.7%	15.5%	15.5%	1.9%	21.9%	3.9%	7.7%	11.6%
同志社大学	16.8%	33.7%	5.0%	3.8%	17.5%	2.5%	6.9%	20.6%
京都産業大学	12.2%	24.5%	16.3%	10.2%	8.2%	2.0%	18.4%	8.2%
総計	8.9%	32.1%	5.7%	2.9%	19.4%	2.9%	6.7%	9.2%

表4 京都はハイテクベンチャー企業の多い町だという意見への賛否

	非常に賛成	賛成	どちらとも言えない	あまり賛成できない	全く反対	サンプル
龍谷大学	4.4%	24.2%	60.1%	9.7%	1.6%	318
京都大学	10.2%	31.8%	49.0%	8.3%	0.6%	155
同志社大学	6.4%	26.8%	54.8%	10.8%	1.3%	160
京都産業大学	8.3%	25.0%	62.5%	2.1%	2.1%	49
総計	6.5%	26.6%	56.5%	9.1%	1.3%	682

表5 あなたの大学における産学協同について、あなたのご存じでしたか？

	知っている	知らない	その他	サンプル
龍谷大学	10.5%	89.1%	0.3%	321
京都大学	31.6%	67.7%	0.6%	158
同志社大学	20.6%	78.2%	1.3%	160
京都産業大学	22.4%	77.6%	0	49
総計	18.6%	80.8%	0.6%	688

表6 学生による大学での産学協同についての評価

大学	非常に活発である	やや活発である	平均的である	あまり活発でない	停滞している	その他	サンプル
龍谷大学	3.8%	25.5%	46.2%	18.9%	4.7%	0.9%	106
京都大学	7.8%	33.8%	27.3%	28.6%	2.6%	0.0%	77
同志社大学	1.7%	24.1%	31.0%	37.9%	5.2%	0.0%	58
京都産業大学	0.0%	4.5%	50.0%	36.4%	9.1%	0.0%	22
総計	4.2%	25.9%	37.6%	27.4%	4.6%	0.4%	263

表7 京都が発展するために、伸ばすべき産業

大学	ハイテク産業	伝統産業	どちらも言えない	その他	総計
龍谷大学	30.8%	41.0%	27.6%	0.6%	315
京都大学	24.0%	24.7%	50.0%	1.3%	154
同志社大学	27.7%	24.3%	48.0%	0.0%	148
京都産業大学	14.6%	37.5%	47.9%	0.0%	48
総計	27.4%	33.2%	38.8%	0.6%	665